

Bonjour à tous.

受講生のみなさま、こんにちは。

日ごとに春の訪れを感じるようになってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

今回の Lettre de l'Institut では、2019 年春学期に新しく始まる講座やリニューアルする講座とお申込み方法を中心にお知らせいたします。

また、春といえばフランス語の試験の時期です。DELTA/DALF、TCF や仏検は、日ごろのフランス語学習の成果を試す絶好の機会ですので、ぜひ一度受験してみたいはいかがでしょうか。通信講座では DELTA 試験対策、仏検対策コースのご用意がありますので、ぜひご利用ください。冬学期の学習を進める一方で、春学期の計画もそろそろ立てていきましょう！



Bonne étude!

■ Infos pratiques 1 – 2019年春学期 新開講・リニューアルコースのお知らせ！



▶課題リニューアル！「聞き取り中心 Compréhension orale (3CEC1)」B1 レベル

フランスのニュース番組を見て、聴いて、聞き取り力を強化するコースです。聞き取りの「コツ」をつかみ、情報を理解する力を養います。さらに現代のフランス社会を知る機会にもなります。

★リニューアル課題：1. « Un homme et une femme » a 50 ans 2. le fabriqué en France 3. l'Internet
4. les anciens présidents français 5. les chiens d'élite



▶課題リニューアル！「翻訳入門 Traduction initiale (3CVT3)」B1 レベル

本格的な翻訳に入る前の準備講座のひとつです。仏和・和仏ともそれぞれ5課題で、合計10課題に取り組みます。

これまで3CVT3を受講済みの方も、春学期は新しいテーマで翻訳に取り組みます！

★ 詳しくは、2019年度パンフレットをご覧ください ★

■ Infos pratiques 2 – 通信講座・2019年春学期のお申込みについて



開講期間：4月1日（月）～ 6月20日（木）
お申込み受付：2019年3月4日（月）より開始

お申込みには、便利な「通信ブティック」をご利用ください

★ tsushinboutique.com ★

教材がお手元に届くまでに、お申込みした日から1週間～10日ほどかかります。
開講日から学習できるようお早めにお申込みください。



■ Infos pratiques 3 – 答案提出の際のご注意

答案提出の際、答案用紙の表紙ページの左上に「住所ラベル」を貼付してください。住所ラベルを貼り忘れると、どなたの答案かわからず添削答案が返却ができなくなりますのでご注意ください。

Le mot **main** porte de nombreux sens (pouvoir, contrôle, travail, habileté) et forme la racine de nombreux mots. De même que le radical « *tehen* » (扌) se retrouve dans un grand nombre de kanjis, la famille du mot *main* est très riche en français.

Dans la liste ci-dessous, un seul mot ne fait pas partie de cette famille. Pouvez-vous deviner lequel ?



main (手) という語はたくさんの意味をもち (権力、支配、労働、技)、多くの語の元となっています。手偏(扌)が多く漢字の一部となっているとのちょうど同じで、**main** から生まれた語はフランス語にたくさんあります。以下のリストの中で **main** から来ていない語がひとつだけあります。それはどれでしょう？

maintenant - *manager* - *manche* - *manège* - *maniable* - *manier* *manière* - *mannequin* - *manquer* - *manucure* - *manuel*

Main vient du latin *manus*. L'adjectif correspondant à *main* est **manuel**, du latin *manualis*. Cet adjectif est devenu un nom par simplification de l'expression *un livre manuel* (« petit livre qu'on peut tenir à la main ») : en effet, un livre de classe doit être **maniable** (de **manier**, « bouger avec la main ».)

Le suffixe *-cure* de **manucure** vient du latin *curare*, « soigner ». Le japonais マニキュア vient de l'anglais *manicure*, emprunté au français mais déformé. Il faut toujours que les Anglais abîment les mots qu'on leur donne...

À l'inverse **manager** vient de l'anglais *to manage*, « diriger un cheval », issu de l'italien *maneggiare*. Le mot apparenté *maneggio* (« dressage de cheval ») a donné le français **manège**. Étymologiquement donc un *manager* conduisait des chevaux. Aujourd'hui ce sont des hommes, heureusement les méthodes ont un peu changé...

Manière est dérivé de *main* : c'est une façon de faire, d'utiliser sa main. Sous son sens élargi de « façon d'agir », il est passé en anglais (*manner*), puis en japonais (マナー) qui n'a gardé que le sens positif (« les bonnes manières »).

De *manus*, le latin a dérivé *manicus* (masculin) et *manica* (féminin), qui sont devenus en français **le manche** et **la manche**.

Le manche se tient par la main (**le** manche de la poêle), alors que **la** manche couvre le bras jusqu'à la main.

Quant à **maintenant**, c'est « en tenant à la main ». Avant de signifier l'instant présent, *maintenant* désignait deux actions consécutives, et donc qui « se touchent » dans le temps.

L'intrus était donc **mannequin**, qui vient du néerlandais *mannekijn*, « petit homme ». La forme bruxelloise de ce mot est *manneken*, qui a donné son nom à une statue célèbre...



main という語はラテン語の *manus* から来ています。対応する形容詞は **manuel** (ラテン語の *manualis*) です。さらに、**un livre manuel** (手にとることができる小さな本) が省略によって名詞となり、**un manuel** (教科書) となりました。たしかに、教科書は **maniable** (使いやすい) ものでなくてははいけません。(**manier** は「手で動かす」の意。)

manucure などに使われている接尾辞 *-cure* は、ラテン語の *curare* (手入れをする) から来ています。日本語になったマニキュアの語源は英語の *manicure* でフランス語からの借用語ですが、少し形が変わっています。イギリス人はいつも借りてきた語を変形させてしまうんです...

反対に、**manager** は英語の *manage* (馬を御す) から来ており、これはさらにイタリア語の *maneggiare* が元となっています。これと類似した語 *maneggio* (馬の調教) はフランス語に入って **manège** (調教、メリーゴーランド) となりました。ですから語源的にはマナーは馬を御していたのです。今日では対象は人間になりましたが、幸いなことにやり方は少し違っています...

manière (方法) も **main** の派生語です。「やり方」つまり「手の使い方」ということです。より広い意味では「ふるまい」も意味し、それが英語の *manner* や日本語のマナーとなり、よい意味でのみ使われるようになりました (作法の意)。

ラテン語の *manus* から派生した *manicus* (男性名詞) や *manica* (女性名詞) はフランス語に入って **le manche** (取っ手) や **la manche** (袖) になりました。取っ手は手でつかみますし (フライパンの取っ手など)、袖は手にいたるまでの腕を覆います。

maintenant (今) は、「手にとって」の意味です。「今」を意味する以前は、*maintenant* は二つの連続した行動、つまり時間の中で隣接する行動を意味していました。

「手」を語源としていない語は、オランダ語の *mannekijn* (小さい男) から来ています **mannequin** です。ブリュッセル方言では *manneken* となり、あの有名な像の名前になっています...